

2019年度 外来魚情報交換会 講演要旨

ウシモツゴビオトープに放流されたオオクチバス

谷口倫太郎・進東健太郎・北島淳也（東海タナゴ研究会）

ウシモツゴ *Pseudorasbora pugnax* はコイ目コイ科モツゴ属に属する小型淡水魚である。本種は日本固有種であり、三重県、愛知県、岐阜県の東海三県のみ分布している。また、本種は環境省レッドリストでは絶滅危惧種ⅠA類に指定されている他、三重県、愛知県、岐阜県の各県のレッドリストにおいても絶滅危惧種ⅠA類、岐阜県では指定希少野生生物として保護対象に指定されている。

岐阜県の南濃町、養老町の境界にある「下池ビオトープ」は、津屋川、揖斐川、牧田川に囲まれている輪中地帯の中にある。かつてこの地域は下池とよばれる大きな池の一部であり、ウシモツゴが生息していた。2014年7月に下池ビオトープにおいて、日本魚類学会の『生物多様性の保全をめざした魚類の放流ガイドライン』に基づいてウシモツゴ（琵琶湖博物館の飼育個体）を復元放流した。その後、地域の方々と共に成長を見守っており、毎年冬前には個体数把握と池の管理を兼ねた池干しを地域のイベントとして実施している。現在、この下池ビオトープを始めとする下池周辺の地域は、貴重な淡水魚や植物などの「地域の宝」が残っている場所であり、ウシモツゴもその宝の一つとして、下池地域環境保全管理組合を中心とする地域の方々に守られている状態である。

2019年6月24日、下池ビオトープ内にて外来生物法によって特定外来生物に指定されているオオクチバス *Micropterus salmoides* を目視で確認した。その後、確認した個体を釣りによって駆除したが、2019年7月28日に別の個体を目視で確認、その後、確認した個体を釣りによって駆除したが、2019年8月24日に別の個体の死骸を確認、2019年11月23日の池干しの際には新たに5個体を採集した。オオクチバスが確認された原因は未だ不明である。しかし、下池ビオトープは周辺の河川及び農業用水路からは独立しており、オオクチバスが周辺の水域から自力で侵入するのは不可能である。そのため、周辺の水域またはその他の水域から運び出された個体が人為的にビオトープへ放流された可能性が高いと考えられる。また、下池ビオトープ周辺の水域はバスフィッシングの名所であり、連日多くのバサー（バス釣りをする人）を見かけるが、ゴミのポイ捨て、私有地への侵入、駐車マナーの悪さなどから、近隣住民や農業関係者とのトラブルも多く確認されている。

2019年11月23日に実施した池干しでは、前年には約300個体ほど確認ができていたウシモツゴは、約80個体まで減少していた。今回のビオトープ内におけるオオクチバスの確認が、仮に人為的な放流が原因であるとすれば、宝であるウシモツゴを中心とした地域一体でのまちづくり活動を汚すような行為であり、極めて悪質で許しがたい。